

カナダにおけるマーガレット・M・ヤング

尾上 明子



Margaret Madora Young
(1857 ~ 1940)

はじめに

本学は、100周年（1998年）を機に歴史資料室を設置し、1996年度より歴史資料の保管や歴史編纂のための準備を始め、1997年7月写真集発行が決まり、とにかくささやかなものでも一つのまとまったものを作ることになり、「目で見える〈柳城〉の100年」(注1)を刊行することができた。まとめることによって様々なことが見えてきた。本格的な『100年史』の作成のためには何が必要なのか委員会としていろいろな角度から検討し、ほぼ全体の構想が決まり、現在そのための資料の確認作業をしているところである。

特に本学の初期資料は戦争のため、また、多くの証言者達が亡くなってしまっている今、手がかりを掴むことが年々困難になっている。

本学が保育科として現存する養成校で全国で4番目に古い歴史を有する大学として、歴史を記録したり検証することは、日本の保育史においても、又大学のアイデンティティに関わる点においても極めて重要な事柄であると考えます。

大学のアイデンティティとは、ほとんどの場合その大学の創立者の意図するところ、すなわち、目的やスピリットによることが多い。学生が入学と同時になんとなく聞く「愛をもって仕えよ」という創立者の精神は、どのようにして生まれてきたのかを知ることは意義深い。私は、歴史資料委員会に関わる者として、また、一個人としても限らない興味をもってこのことを研究していきたいという想いを持っている。なぜならば、ヤング先生については、おいたちはもちろん、ほとんど正確なものが残されていなかったからである。私自身、本学に赴任したばかりの頃、キリスト教保育連盟出版「キリスト教保育に捧げた人々」(注2)のマーガレット・ヤングの項を執筆したのであるが、少ない参考資料に基づいて書いた内容は

かならずしも正確なものでなかった。

しかし、二度に渡るカナダ調査（一回目1998年9月、二回目1999年6月、各一週間）によって、今回報告させていただくような様々な真（新）事実が少しずつではあるがわかってきた。特に草創期の柳城については、はじめの予想に反して日本での調査より、むしろカナダでの調査の方が様々な興味深い事実や資料を発見することができる可能性があることが解ってきたのである。その中で、カナダ聖公会本部にある資料室では、ヤング先生の本国への報告書が多く見つかり、原資料として重要な価値があるので、本学菊地伸二助教授が翻訳し、今年度の紀要に発表された。尚、カナダでの調査の先駆けは、大江真道司祭で、一部が本学紀要に翻訳掲載されている。（注3）

私の方は、以下の項目について現在判明したことを、考察を加え報告していくことにしたい。

1. マーガレット・M・ヤングの氏名と家族
 - (1) 氏名（Full Name～Margaret Madora Young）について
 - (2) 家族について
 - (3) カナダの移民について
2. マーガレット・M・ヤングゆかりの地について
 - (1) Vienna と Port Burwell
 - (2) Aylmer～主任保母としてのヤング先生
 - (3) オンタリオ州の幼稚園について
 - (4) ゆかりの地・地図
3. カナダ聖公会とマーガレット・M・ヤング
 - (1) カナダ聖公会の成立
 - (2) カナダ聖公会における女性宣教師養成学校AWTC [Anglican Womens Training College] とヤング先生・トレント先生

1. マーガレット・M・ヤングの氏名と家族

- (1) 氏名（Full Name～Margaret Madora Young）について

ヤング先生の氏名については、マーガレット・ヤングまたはマーガレット・M・ヤングと表記さ

れることが多く、いわゆる Full Name については、公のものに載せられることなく今日まで来たようである。（但し、昨年のカナダ調査により確証を持ち、「目で見る〈柳城〉の100年」に記載した。）First NameがMargaretであることは、確かなことであったが、Secund Nameは2説あり謎に包まれていた。一つは、パウルス師（注4）が、「あかしびとたち」（注5）に著述されたマーガレット・メアリー・ヤング（Margaret Mary Young）であり、もう一つは、ヤング先生が亡くなられた後出された「追憶」（注6）にあるマーガレット・マドラ・ヤング（英字の記載なし）であった。しかし、「追憶」は、資料室に1冊しかなく、今まで人目に触れることはなく、ヤング先生を知る当時の関係者も、Full Nameまで知る人は多くは無かったようである。

私ははじめに述べたように、このような環境のもと、過去にパウルス師の説によって書いたこともあり、2説あるこの事実をどのように捉えたらよいか悩んできた。「追憶」は、当時の関係者が書かれたものであるからおそらく正しいと思うが、パウルス師の根拠となるものや、「追憶」を証明するものが今回の調査によって明らかになることを願っていた。その結果、カナダ聖公会の資料室において2つの資料を見つけることができた。

一つはヤング先生が最後に日本に来られた時の愛知県発行の『滞邦許可書』（資料1）であり、ここに明確にマーガレット・マドラ・ヤング [Margaret Madora Young] と記されている。もう一つは、それに関連したものようであるが、名古屋のミッシヨナリーから大阪のカナダ公使宛の書類である。（資料2）それは、ヤング先生という退職した宣教師の存在を紹介する内容であり、ここにも明確にFull Nameや出生地・生年月日などが記載されている。

さて、更に私たちの知りたいことは、ヤング先生の洗礼名である。

第一回の折り、ヤング先生の生まれたViennaの聖公会の教会で調査を試みたが、教会員名簿は、最近のものしかなく、また有ったとしても教区資料室にあるとのこと。そして、その教会は何回か火事にあっているとのことであった。このような理由から、次の調査を待たなければならない

のであるが、一つの推測を試みることにする。

Madoraは、カナダにおいて一般的に使われない珍しい名前ということからMargaretの方の可能性が強いように思われる。Margaretの方は、「聖人事典」(注7)にも5～6名は載せられているがMadoraは一人もいない。また、Margaretの方は、大変ポピュラーな名前でもある。「聖人事典」には、次の6人が載せられている。①マリー・マグダレン・ポステル [Mary Magdalen Postel] ②マルガリタ(スコットランドの) [Margaret of Scotland] ③マルガレータ [Margaret] ④マルガレータ(コルトナの) [Margaret of Cortona] ⑤マルガレータ(ハンガリーの) [Margaret of Hungary] ⑥マルガレータ・マリア [Margaret Mary] である。

この中でも最も可能性が高いのは、ヤング先生の父親がスコットランド出身ということと彼女の生涯を考えると、スコットランドのマルガリタ [Margaret of Scotland] ではないかと思う。スコットランドのマーガレットは、現在のイギリス王室の女祖先となった王妃である。彼女は、1045年イングランド人の王、エドモンド・アイアンサイドの孫娘にあたり、ハンガリーで追放の身にあったドイツ人の母から生まれたが、1057年にイングランドに連れて行かれた。ノルマン人の征服の後、スコットランドに避難し、1070年に国王マルコム三世と結婚した。彼女は常に深く宗教的で、王妃としてスコットランド教会のある慣習を西方の一般的な規律と一致させるために、強い意志をもって臨んだ。

彼女は、自分の子どもを立派に育て上げたが、特に孤児や貧しい人々に対する彼女の配慮は注目すべきものがあったという。

これらの推測は、あくまでも現時点での推測に過ぎず、真実を知っておられる方の証言、また、事実を証明する資料が出てくることを期待したいと思う。

(2) 家族について

ヤング先生の家族については、これまでほとんど何も解っていなかったと言って過言ではない。ただ、一人の姉の結婚後の名前 (Mrs Gilbert) の存在しか判明していなかった。カナダでの調査の目的の一つは、ヤング先生の氏名とともに家族に

ついでのなんらかの情報を探すことであった。しかし、これについては、1回目の調査によってカナダ聖公会本部でも資料がなく、調べる方法も難しいということで途方に暮れていたのが実状であった。このような状況であったが、今回、エールマ (Aylmer) 町の博物館職員の方から、CENSUS「国勢調査書」(資料3) というものがあるのでヤング先生の生まれた町にひょっとしたらあるかもしれないという情報を頂いた。ヤング先生の生まれた町、Vienna (オンタリオ州) は、昔は、移民によって栄えた町であったが、現在は、小さな村で、その村の図書館は、たった一部屋のささやかな図書室という名がふさわしいものであった。しかし、その図書館の棚にCENSUSは無造作に置かれていた。

国勢調査は10年に一度行われていたということで、1861年と1871年の2冊を見つけることができた。ふるえるような想いで紐解くと最後のページにYoung Familyが記載されていたのである。おおげさなようであるが、100年にしてはじめてヤング先生の家族がわかり、ヤング先生のルーツを探ることができたのである。このCENSUSは、もちろん原本ではなく、原本から編集されたものであるから原本がどの程度のものであったかは現在の所、知ることはできない。しかし、この資料によって、ヤング先生の家族名・登録時の年齢・職業・誕生地・宗教・既婚か未婚かを知ることができた。

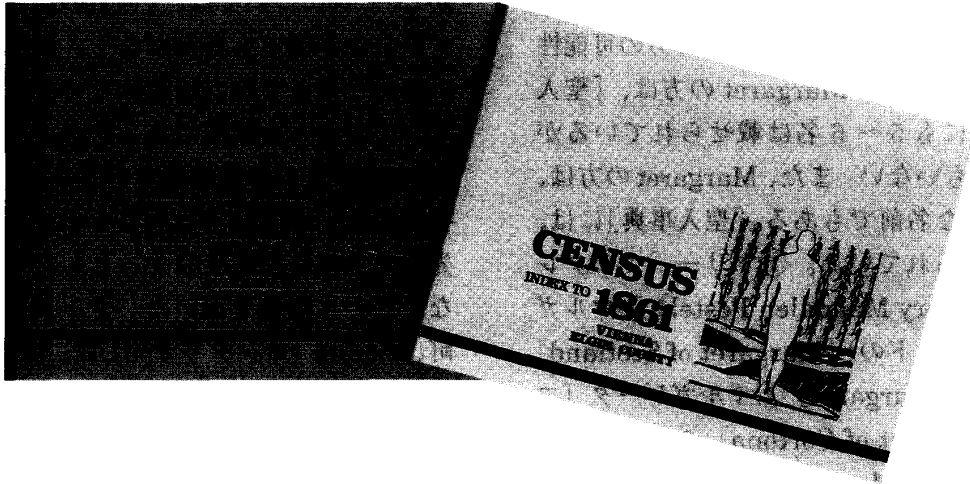
これによると、まず1861年(資料4)時は、父Robert (41)、母Mary (41)、姉Hannah (8)、本人Margaret (5)、妹M.、弟Fred (1)という家族構成であった。

ここで一つのなぞが生まれたのであるが、ヤング先生の生年は、1857年4月1日であることは、おそらく間違いのない事実だと思うが1861年時の年齢が5歳であるとしても計算が合わないのである。これは、1871年も同様である。

1871年(資料5)時は、父親が記載されていないところを見ると若くして亡くなられたようである。1861年時の妹M.は、1871年をみるとMarionであることがわかる。また、弟Fredは、Frederick、その下に妹Fanny (8) が生まれている。

また、姉は19歳でTeacherとあるからヤング先生の先達になる。そして、父親が早く亡くなった

資料3



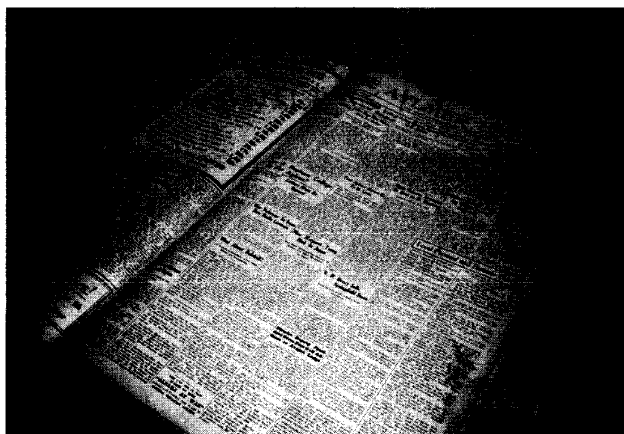
資料4 1861年 CENSUS

Last Name	First	Age	Occupation	Place of Birth	Religion	Marital Status	Page No	Comments
Wright	James	36	Grocer	U. C.	F. C.	M	12	
	Elizabeth	38		Scotland	F. C.	M	12	
	Elizabeth	18		U. C.	F. C.	S	12	
	S. J.	12		U. C.	F. C.	S	12	
	James R.	9		U. C.	F. C.	S	12	
Yocum	Richard	38	Labourer	U. C.	Methodist	M	8	
	Louisa	36		U. C.	Methodist	M	8	
	John	2		U. C.	Methodist	S	8	
Young	Robert	41		Scotland	F. C.	M	5	
	Mary	41		U. C.	C. of E.	M	5	
	Hannah	8		U. C.	C. of E.	S	5	
	Margaret	5		U. C.	C. of E.	S	5	
	M.	3		U. C.	C. of E.	S	5	
	Fred	1	U. C.	C. of E.	S	5		

資料5 1871年 CENSUS

Last Name	First	Age	Occupation	Place of Birth	Religion	Marital Status	Page No	Comments
Wilson	Marla	18		Ontario	Prot.	S	18	
	Edward	4		Ontario	Prot.	S	18	
Wright	James F.	45	Grocer	Ontario	Presb.	M	6	
	Elizabeth	49		Scotland	Presb.	M	6	
	Mary	23	Teacher	Ontario	Presb.	S	6	
	Sarah	21	Teacher	Ontario	Presb.	S	6	
	James	18	Carpenter	Ontario	Presb.	S	6	
Wrong	Gilbert	43	Machinist	Ontario	C. of E.	M	29	
	Christina	42		Scotland	C. of E.	M	29	
	Helen A.	15		Ontario	C. of E.	S	29	
	James	13		Ontario	C. of E.	S	29	
	George	11		Ontario	C. of E.	S	29	
Yokum	William	8	Farmer	Ontario	C. of E.	S	29	
	Richard	49		Ontario	Methodist	M	13	
	Lousia	46		Ontario	Methodist	M	13	
Young	Wm.	5		Ontario	Methodist	S	13	
	Mary	53		Ontario	C. of E.	W	26	
	Hannah	19	Teacher	Ontario	C. of E.	S	26	
	Margaret	15		Ontario	C. of E.	S	26	
	Marion	12	Ontario	C. of E.	S	26		
	Frederick	10	Ontario	C. of E.	S	26		
	Fanny	8	Ontario	C. of E.	S	26		

ことにより、姉とともに教師として働かれたことは、当時、能力のあった姉妹にとって十分に可能であったことであろうし、また期待されていたと察することが出来る。また、姉 Hannah は、ヤング先生の亡くなったことを報じる記事が地元新聞 The Aylmer Express (資料6)によると、結婚後、Mrs. H. Gilbert になり、一番末の妹は、Mrs. F. Inglis とあり、当時二人とも Glencoe に在住していたとある。これは、退職されたヤング先生が姉とともに Glencoe に住まれたとなっているこれまでの記述と一致する。尚、CENSUS から、ヤング先生の父親は、スコットランドから来たことと F・C、すなわち、Free Church 派 (注8) であり、父親以外は、皆、カナダ聖公会であったことが判明した。



資料6

(3) カナダの移民について

カナダの歴史は、移民の歴史と言っても過言ではない。ここで今、その歴史を云々する時間と能力を持ち合わせていないが、ヤング先生の生まれた時代は、どのような状況であったか、今回の調査で少なくとも父親がスコットランド・グラスゴーから来たことが判明したので、多少とも触れてみたいと思う。

CENSUS によると、父親 (Robert) は、1861 年時 41 歳で、ヤング先生の姉 (Hannah) は、8 歳、カナダ生まれとあるので、父親 33 歳の時は、カナダにいた事になる。それ以前は、現在のところ不明であるが、大体 30 歳位に移民したとすると、1851 年頃となる。

18世紀から19世紀には、英領北アメリカには、6つの植民地が存在し、それらは、東からニューファンドランド、プリンス・エドワード島、ノヴァスコシア、ニューブランズウィック、ロワーカナダ、アッパーカナダである。この6植民地の西にハドソン湾会社が支配する広大な領有地が広がっていた。初期はフランスからの移民が多かったが、イギリスが領土としたことにより、圧倒的にイギリス諸国からの移民が多くなり、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、マン島などからの移住者がぞくぞくと押し寄せた。ケベック港への到着数は、1851年で、イギリス9600人、アイルランド22381人、スコットランド7000人となっている。また、民族構成の変化を次の表(資料7)で見ると、

資料7 民族構成の変化

(単位：万人)

民族的出自	1871		1911		1951		1971	
	人口数	比率(%)	人口数	比率(%)	人口数	比率(%)	人口数	比率(%)
英系	211.1	60.6	399.9	55.5	671.0	47.9	962.4	44.6
イングランド	70.6	20.3	187.1	26.0	363.0	25.9	624.6	29.0
アイルランド	84.6	24.3	107.5	14.9	144.0	10.3	158.1	7.3
スコットランド	55.0	15.8	102.7	14.2	154.7	11.0	172.0	8.0
他	0.8	0.2	2.6	0.4	9.2	0.7	8.6	0.4
仏系	108.3	31.1	206.2	28.6	431.9	30.8	618.0	28.6
その他	29.2	8.4	114.6	15.9	298.1	21.2	576.4	26.7
合計	348.6	100.0	720.7	100.0	1,400.9	100.0	2,156.8	100.0

出所：Statistics Canada.

注：比率は小数点2位以下四捨五入。

1871年時の人口比率は、英系60.6（内訳イングランド20.3 アイルランド24.3 スコットランド15.8 その他、0.2）仏系31.1 その他8.4となっている。次に、連邦結成前の英領北アメリカ植民地人口の推移と移民人口の趨勢も参考資料（資料8・9）として掲載しておきたい。

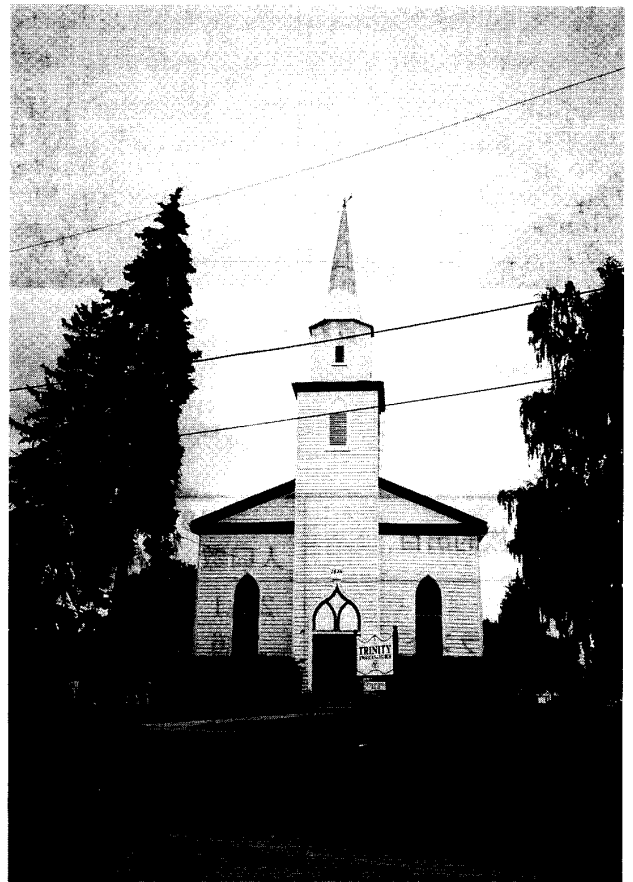
2. マーガレット・M・ヤングゆかりの地について

(1) 出生地 Vienna と Port Burwell

出生地を論じる前に改めて出生国について述べたい。出生国については、以前よりヤング先生の氏名と同様二説あり、よく知られているカナダ説 Vienna（オンタリオ州）とパウルス師によるスコットランド・グラスゴー説とがあった。現地での調査により、カナダ説を裏付ける様々な資料（資料1、2、3、4、5）が見つかり間違いはないと思うが、私はこの点について以前からひっかかるものがあった。それは、パウルス師が何の根拠もなしに著述されることはないと思ったからである。今回、その点をお聞きした。その結果、パウルス師は、カナダ聖公会本部にある資料をみて著述されたとのことであった。本部での資料探しの結果、ヤング先生の死亡について、1940年5月の *The Living Message*（資料10）に *Aylmer Express* という地元新聞からの転載という形で掲載された記事を見つけることができたのである。そこには、ヤング先生がスコットランド・グラスゴーから幼い時に移って来たこと、Port Burwell と Vienna でよく知られていたという記述がある。このことによって、パウルス師の根拠となった資料の存在は判明したのであるが、しかし尚、なぜ地元の人によって書かれたものに、明確にスコットランド・グラスゴー生まれとなるのか大きな疑問が残った。この点についてパウルス師に問い合わせたところ CENSUS（国勢調査）が見つかったことにより、父親がスコットランド出身という際、当時、家族全体をスコットランド移民として考えるという可能性はあったかもしれないということであった。疑問は残るが次に進めたい。

さて、ヤング先生ゆかりのカナダ地図を見て頂

きたい。父親は、まず、オンタリオ州、Port Burwell に住み着いた可能性が高い。この地は、エリー湖に面した風光明媚な静かな町であるが、その昔、英国からの移民達によって、鉄道が引かれ、港には、大きな舟が発着していた活気あるところであった。Port Burwell（地図H）という地名は、この地においてBurwell父子が様々な貢献をしたことから、Burwellの港という名称になったということである。現在は、釣りやボートを楽しむレクリエーション地として親しまれている。また、Marine Museumに訪れる人々もけっこういるようである。この地でも、ヤング先生に関わる何かを見つけないかと願っていたが、Marine Museumで買い求めたこの町の歴史をまとめた本 *MEMORIES*（資料11）に、偶然、ヤング先生の弟 Frederick の奥さんの写真を見つけた。そこで、ヤング先生がこの町に関わりがあると確信を得て、町で一番古い建造物である聖公会の教会 *Trinity Anglican Church*（資料12）を訪れた。現在のメンバーにヤング家はいないということ



資料12 Port Burwell の最古の建造物
Trinity Anglican Church

About Ourselves and Others

Parochial Living Message Secretary-Treasurers must communicate only with their Diocesan Secretary-Treasurers regarding subscriptions, mailing, etc. Communications from Diocesan Secretary-Treasurers should reach headquarters not later than the fifteenth of each month. All subscriptions terminate December 31st and are payable in advance.

In Memoriam

MARGARET M. YOUNG

Contributed by Friends in Aylmer

Word has been received of the death of Miss Margaret M. Young, Missionary to Japan, who is well known in Port Burwell, Vienna and Glencoe, which occurred in a hospital in Yokohama, Japan. Miss Young, who was 85 years old, had spent 27 years in teaching and Mission work for the Anglican Church in Japan, and during the Winter she left Canada for her third trip back to the Mission Fields where she had spent a large part of her life. She was seriously ill when her boat docked at Yokohama and following a stay of six or eight weeks in the hospital there, her death occurred. Miss Young retired from active Mission work in 1922, and lived with two of her sisters at Glencoe, but she was not contented to remain in Canada. She wished to end her days in Japan and take her final resting place in the Mission

time she brought with her an adopted boy, Masataka Shimizu, to enable him to complete his education in Canada. A number of Port Burwell persons remember the lad who acted as organist at Trinity Anglican Church here during his stay.

Miss Young was born near Glasgow in Scotland, but came out to Canada as a young child. Most of her childhood was spent in the Port Burwell and Vienna district. Previous to her leaving for Japan, Miss Young taught school at Straffordville, Vienna and other Bayham township points. In 1888, after fifteen years of teaching, she commenced studying Kindergarten work at Hamilton, then followed the establishment of the Aylmer Kindergarten School and five years of teaching there. She left Aylmer for the Mission Fields of Japan in 1895, and work in the Orient occupied the remainder of her life.

She is survived by two sisters at Glencoe, Mrs. F. Inglis and Mrs. H. Gilbert, and a brother, Fred, at Port Burwell.

—“Aylmer Express”.

plot beside the graves of all her fellow-workers who had predeceased her. Miss Young's wish, which she had repeated several times, will no doubt be complied with following her death at Yokohama.

Miss Young went to Japan for the first time in 1895, and all of her work was done in the district known as Nagoya. Her main work was in establishing Kindergarten Schools, and through her scholars she was able to contact the parents and adult population of her district. In 1922, at the time of her retirement, she had established six Kindergarten Schools, and they were operating under her supervision. Teachers in those Schools had all been specially trained by Miss Young. There was a list of sixty-five Christianized Japanese whom Miss Young counted as her god-children. During her quarter century of work in the Orient, Miss Young had taken several Japanese youngsters under her care as wards. In 1922 when she returned to Canada for a

MISS GIBBERD

The following note is quoted from the News Bulletin of the Student Christian Movement.

We are sorry, indeed, that GRACE GIBBERD leaves us after a year as National Missionary Secretary. A graduate of the University of Western Ontario, she came to the Staff after some years with the Angloan W.A. in Honan, China. It has been a difficult year for a newcomer to the Staff, because she was immediately plunged into the leadership of our preparation for the Christmas Conference on “The World Mission of Christianity”. With characteristic vigour she took hold and was soon in control of the situation. She has been a much-appreciated visitor to the universities, all of which she has visited this year. In her work with the Missionary Council, in personal contacts with students, as a platform speaker, her insight, fire and charm have made her an invaluable interpreter of the World Mission of the Church. About two months ago, it was known that the work of her Mission in Honan was to be resumed. The pull of the S.C.M. was strong, but that of Honan was stronger. So we lose her from our Staff with much regret. But our loss is Honan's gain.



資料13 Fred. W. Young(1860～1952)と
その妻Mary Burce(1860～1946)のお墓

あったが、ここでも偶然にも、弟と奥さんのお墓を見つけることができた。(資料13)

墓石には、Fred. W. YOUNG 1860-1952, MARY BURCE (HIS WIFE) 1860-1946と記されていた。このことから、弟は、92歳まで長生きされたことになる。

次に Port Burwell から少し内陸地に(車で10分位)、ヤング先生が生まれ育った地 Vienna (地図G)がある。

CENSUSの初めに、Viennaについて、1877年版「エルギン州の図解歴史地図帳」から引用した次のような説明がある。

1830年、パーウェル大佐と聖トーマス教会のダニエル・ハンヴェイが、この村の土地を調査し、パーウェルはこの村をシュローズベリーと名付けることを希望したが、住民の一部がViennaという地名で登録したので今日もそのままになっている。樽板・木材の取引により、この村は、急速に

発展し、1850年にはカナダ西部で最も活発な商業地の一つになった。松・樅・ナラの森に囲まれており、村を流れるアター川によって湖まで航行することができ、川岸から木製品の積み出しができる、といった好条件に恵まれていたため発展したのであった。しかし、火災と過剰伐採による木材取引の衰退によって、1855年から1856年頃には、村から商業地の面影は消え去ってしまい、その後復興することはなかった。現在、村の高台に立派な公立高校が建っている。これは、村の人々の熱意と良識によって建てられたものである。現在の校長は、J・モーガン氏、副校長は、クック氏、事務部長は、アニー・E・ソートン女史、第一副部長は、M・ヤング女史、第二副部長は、ネリー・ロング女史である。この学校は、多くの教師を育成しており、Viennaと周辺地域に多大な恩恵をもたらしている。(下線は筆者)

現在、Viennaは、商業地としては発展していないが居住するには快適な地である。三方を丘に囲まれ、アター川が流れるロマンチックな村であり、澄んだ水と空気に恵まれている。

この説明から、丁度、ヤング先生が生まれた頃は、村としては、商業地であった活気が失われた状況ではあったが、教育熱心な雰囲気にも包まれた村であり、その公立の高校の教師であったヤング先生が、第一副部長としての任務も担われていたということも期せずして証明された。

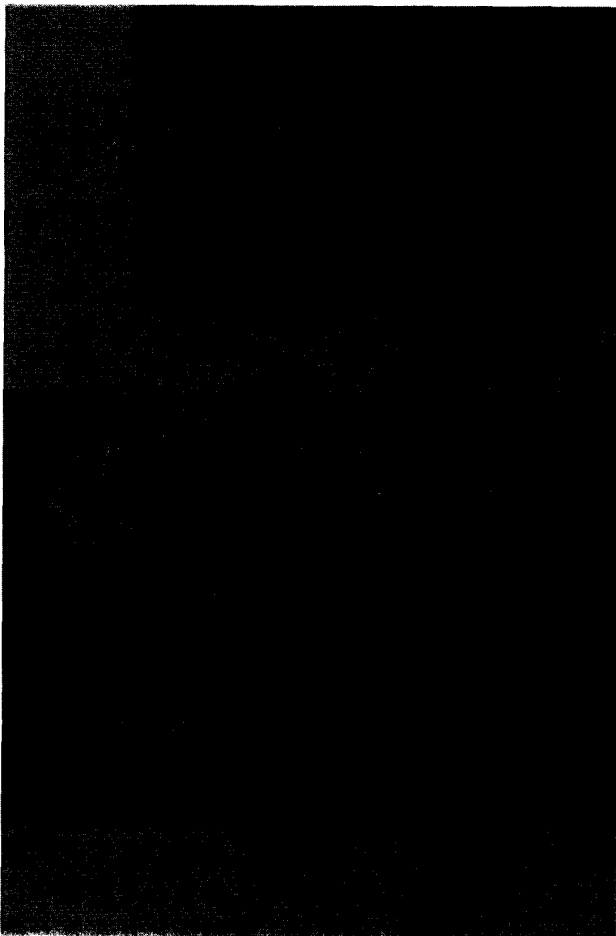
ところで、現在のViennaは、商業地としてのおもかげはもちろんなく、400人弱の小さな村である。カナダをよく知る人でも時代をタイムスリップさせるような、このような村はあまり知らないと言う。カナダは、いかにも住み心地のよさそうな、のんびりした雰囲気の町や村は多いが中でもそれを感じさせるところである。興味深いことに、この村にエジソンの祖父母が住んでいたことからエジソン博物館がある。

(2) Aylmer～主任保母としてのヤング先生

ヤング先生の経歴についてが一番古い記録は、「追憶」(前出・注5)にあり、そこにエールマ町幼稚園主任保母を5年間勤めたと記載されてい

る。また、その後の「あかしびとたち」(前出・注4)のパウルス師の記述されたものがある程度である。

前回のカナダ調査は、「追憶」にあるエールマがカタカナ表記であったため、どのエールマか確定することができず、現地に行ってから、いくつかのエールマからどの町かを推定するところから始まった。(私たちは、はじめオタワのELMAに行ったが違っていった)そこで、出生地に近いAylmerに行ってみることにした。この町の博物館に立ち寄り何か情報がないか探したところ、現在の職員は、解らないということであったが、Early Education in Aylmer (資料14) という小冊子を発見し、そこにヤング先生の名前を見いだした。これは、1892年2月4日のThe Aylmer Sunに掲載されたものの引用でAylmer Public Schoolの1892年2月の平均出席数である。(資料15)



資料14

Attendance Record from "The Aylmer Sun, February 4, 1892".

Aylmer Public School.

Attendance for January, 1892 :

	ON ROLL.	AVERAGE.
Mr. Hammond's Room	57	45
Miss Arnold's	39	34
Miss McPherson's	40	34
Miss A. Arnold's	43	36
Miss Mortin's	53	43
Miss Inglis'	60	48
Miss Knott's.....	54	44
Miss Wlokett's	56	43
Miss Young's Kindergt'n	63	43
Total	465	370

Corporal punishments—3.

資料15 Early Education in Aylmer (p.13)

Public School全体数は、465人であるから、当時としては大規模な学校ではないだろうか。その、一番最後の行に、Miss Young's Kindergt'nとある。しかしながら、その時点では、その一行に確信をもつところまでいかなかった。二回目の調査では、その町で、ヤング先生が主任保母をしていたことの確証を持つことができたという願いがあったのであらかじめ調査の願いを出し、再度、町の博物館を訪れた。そこで、前項でも述べた地元新聞The Alymer ExpressとThe Aylmer Sunにヤング先生の氏名を見つけることができた。前者は、ヤング先生の死亡を報じる記事で1940年4月11日付け、その見出しは、Alymerの最初の幼稚園の先生で後に日本の宣教師になったMiss Margaret Youngとある。

**Miss Margaret Young Died in Japan
Was First Kindergarten Teacher in Aylmer
and Later Missionary to Japan**

(資料16)

また、後者の新聞は、1895年8月1日付け、幼稚園の人事を報じる記事で、公立学校の理事会は、外国伝道のために退める主任Miss Youngの後継者として、Miss Gloverを決めたが、ミスヤングにふさわしい後継者であることをすぐに喜ぶことになるであろうという文を載せている。

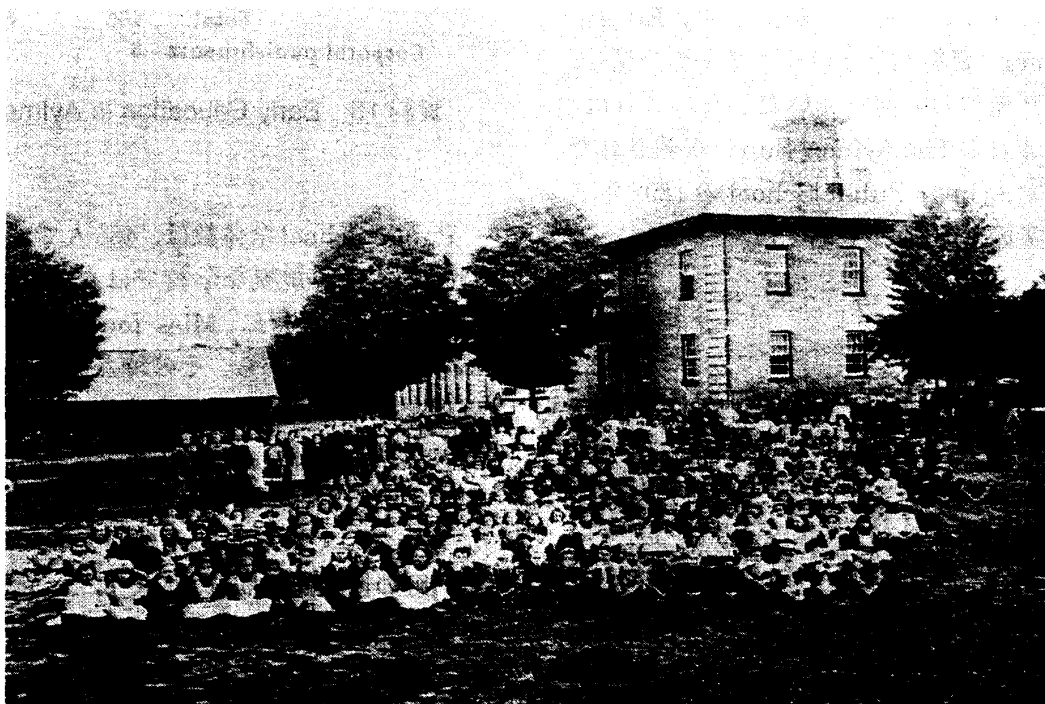
At the last meeting of the public school board Miss Glover was appointed director of our Kindergarten to succeed Miss Young, who goes to foreign mission field.

Our townpeople are to be congratulated in so soon finding a worthy successor to Miss Young, as the folloing testmental will prove...

(資料17)

この二つの新聞から、Aylmer (地図D) でのヤング先生は、町の最初の保母として、また、主任としての働きと立場が多くの人々に認められ、知られていたことを伺い知るのである。また、博物館にある当時の写真は、たった二枚であったが、その一枚は、博物館の職員によると年代が確かであるということから、ヤング先生と思われる。

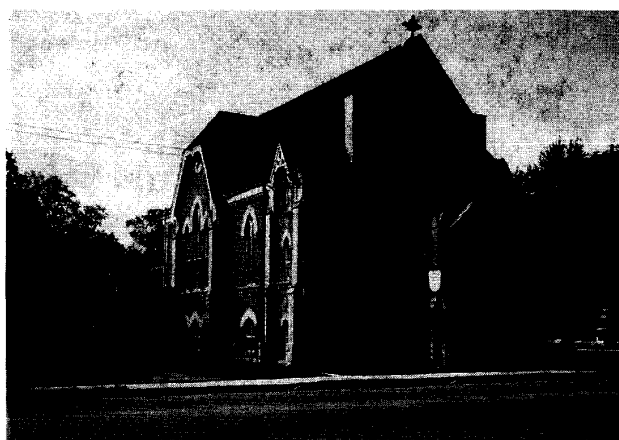
(資料18D, E)



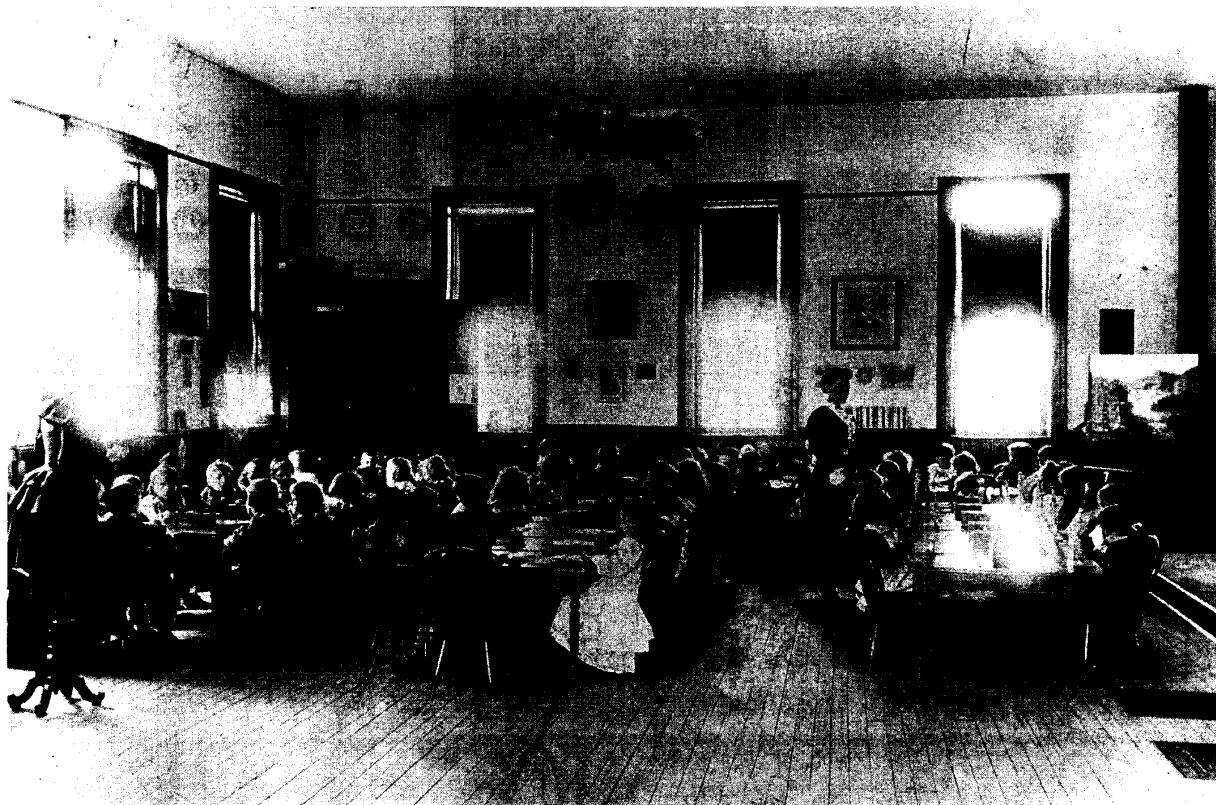
資料18A Aylmer Public School 1897年



資料18B Aylmer Public School



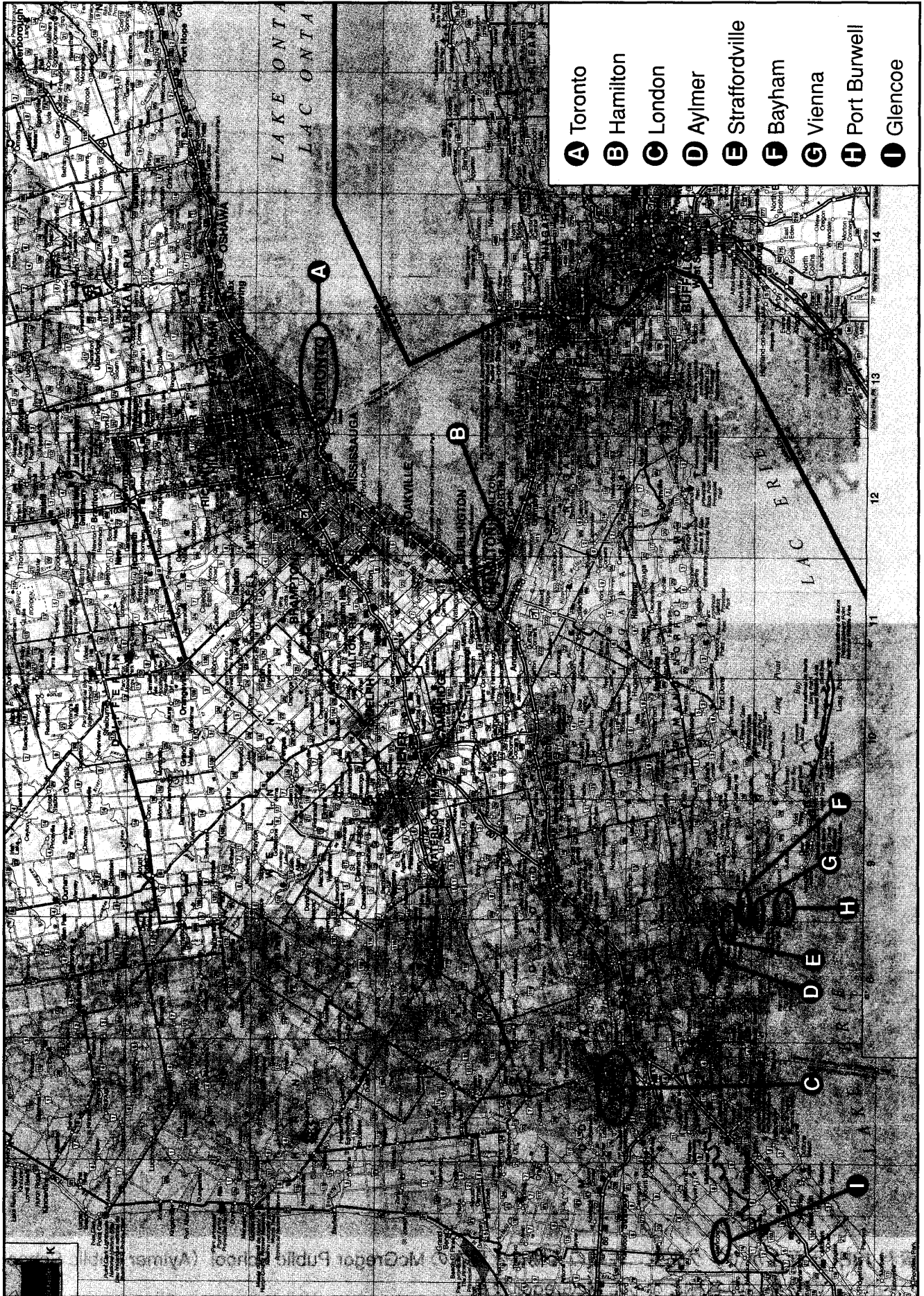
資料18C Aylmer町の聖公会(当時のままの建造物)ヤング先生は、おそらく在職中この教会に連なり、宣教師となられた後は、祈りと支援を受けられていた



資料 18D



資料 18E 正面左がヤング先生 左端の人物は、現在の McGregor Public School (Aylmer Public School の前身) の名称となった McGregor 校長



(3) オンタリオ州の幼稚園について

オンタリオ州は、カナダのどの州より早く、1885年、州制度の一部門として幼稚園を承認した。それには、一組の夫婦の熱心な運動があった。ジェームズ・L及びアダ・ヒューズであり、彼らは、オンタリオ公立学校の一部門としての幼稚園の設立についての責任を持っていた。夫人は、オンタリオ教育協会の最初の婦人会長で、それに先だってアメリカでフレーベル理論を学ん来た人である。オンタリオ州は、1883年には、すでに学校制度の必要部門として幼稚園を取り入れ、アダ・ヒューズを最初の幼稚園指導主事としたのである。

ジェームズ・L・ヒューズは、アメリカ合衆国における最初の公立幼稚園を研究するため、ボストン、ニューヨーク、セントルイスを訪問した。

このような結果、1900年までにオンタリオ州には166の幼稚園が設けられ、1万1千人以上の幼児が通園した。

(4) ゆかりの地・地図

A Toronto	カナダ聖公会本部
B Hamilton	公立師範学校のあったところ(現在は、存続してない)
C London	ヤング先生が学んだ美術学校
D Aylmer	ヤング先生の働いた公立幼稚園
E Straffordville	確証は得られていないが、教師をしたと思われる所
F Bayham	同上
G Vienna	出生地
H Port Burwell	父・弟と関連していると思われる所
I Glencoe	結婚した姉・妹が居住したと思われる所 またヤング先生が退職後居住した所

3. カナダ聖公会とマーガレット・M・ヤング

(1) カナダ聖公会の成立

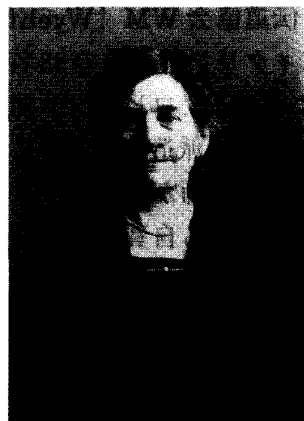
カナダ聖公会 [The Church of England in Canada] 1895年の成立については、J・C・ロビンソン著「カナダ聖公会・宣教団の伝道」～東方の帝国～(注10)により紐解くことができる。ここでは、簡単に紹介したいと思うが設立の経過は複雑である。カナダ聖公会成立以前よりあった組織を年代順に追っていくと、まずはじめに、1698年に英国の司祭ブレイと4人の信徒によって、SPCK [Society for Promoting Christian Knowledge] キリスト教知識普及協会が組織された。次に、1701年にSPG [Society for the Propagation of the Gospel] 英国聖公会・福音宣布教会が創立。1799年には、CMS [Church Missionary Society] が創立。1883年、内外伝道協会 [The Domestic Foreign Missionary Society] が成立。このような中、1886年運営委員会は、カナダ人による海外伝道、すなわち海外への宣教師派遣を決定した。ところが、この決定は、SPGを刺激することになり、英国よりカナダへの援助金の一部削減に繋がる可能性が出てきた。そのため慎重に進めなくてはならなくなり4年の歳月が流れることになった。この結果、内外伝道協会より、最初の宣教師J.G.ウォラー司祭が、SPGの宣教師として、1890年(M23)に日本へ派遣された。1885年婦人伝道補助会WA [Woman's Auxiliary] が成立。1888年ウィクリフ伝道協会WM [Wyclif Mission]、成立。当時、ウィクリフ神学校の33名の卒業生が、自分たちによってJ.C.ロビンソン司祭とその妻を宣教師として日本へ派遣することに決定。1889年J.M.ボールドウィン師がロビンソン司祭の働きを助けるため、名誉ある自費宣教師として来日。つづいて、H.J.ハミルトン師が来日。1894年には、はじめて女性の宣教師トレント師(注11)が来日。つづいて、翌年、マーガレット・ヤングが来日。ヤング先生とトレント先生の来日については、後述したい。この頃、ウィクリフ伝道協会執行部に献金の申し込みが殺到するに及び、神学校の卒業生でつくっている小さな組織で

はそれを処理することが大変に困難であることが明らかになった。1895年になると、いろいろな組織がそれぞれに活動することに支障が出てきた。それは、まず第一に、宣教師たちの精神的な面、すなわち、自分の祖国とその教会との親密なつながりを力の限り持ち続けたいという願い、そして母国から支持されているという信念を失ってはならないということである。第二に、それぞれに活動することは非常に効率が悪く、精神的にもよくなかったことである。こういうことから、ウィクリフ出身の宣教師と CMS の結合という考えが持ち上がり、その結果、カナダ教会伝道協会 [The Canadian Church Missionary Association] の組織が作られるというところへ発展していった。後にこれは、カナダ聖公会 [The Canadian C.M.S.] と呼ばれるようになった。1895年の暮れには、ウィクリフ伝道協会から派遣されている宣教師をこの組織下に所属させることになった。

このような経過をたどり、これらを総括する組織、カナダ聖公会伝道協会が1902年に成立することになったのである。尚、現在のカナダ聖公会は、The Anglican Church of Canada と表示している。

次に、参考資料として、当時の宣教師の一覧表を掲載しておきたい。(資料 19・20)

(2) カナダ聖公会における女性宣教師養成学校 AWTC [Anglican Woman's Training College] とヤング先生・トレント先生について



Edish Mary Trent

これを理解する必要があることを知らされたのである。一つは、カナダにおける女性宣教師の学校が

これまで、私たちは、ヤング先生は、トレント先生に次いで WA [Woman's Auxiliary] とカナダ聖公会 CCMS からの宣教師として来日されたという認識を持っていた。しかし、これが間違っているというのではないが、もう少しの詳細と周辺のこと

あったということ。また、一つは、WA や MSCC また、ウィクリフ伝道協会などとの関連についてである。ロビンソン師が、1912年に上記(1)の内容の報告をされたときには、すでに、1893年、AWTC すなわち、女性のための伝道者の養成機関が存在していたが、直接このことについて触れてはおられない。けれども、このような機関があったことを私たちは、無視することはできない。なぜならば、ヤング先生とともに本学の働きを支えられた一人であり、カナダからの最初の女性宣教師トレント先生 Edish Mary Trent (注12) について知ることは、本学の創立を知る上で必要なことと考えられるからである。

パウルス師によると、AWTC は、はじめ(1893年)は [Missionary and Deaconess Training House] と呼ばれていたが後に、上記の名称になったということである。この機関は、女性の執事になるため、また宣教師として出かけていくための基礎的な学校として位置づけられていた。また、WA から派遣される宣教師は誰でも基本的にここで学ばなければならなかったということである。そして、この学校での養成期間は、トリニティまたは、ウィクリフ神学校との協力によって3年以上必要とされた。トレント先生は、この学校を卒業しているが、ヤング先生は出ておられない。ヤング先生は、AWTC が設立された当時、公立の学校の一部門としての Kindergarten の主任保母として働かれていた(1890～1895)が、この学校を出ずしてすぐに日本へ来られている。

パウルス師によると、ヤング先生は、ウィクリフ伝道協会の Independent Missionary すなわち、独立(自費)宣教師として来られたということである。それは、ロビンソン夫妻や J.M. ボールドウィン師らとともになるもので、彼らを支援する人々によって支えられてはいるが、WA や MSCC (カナダ聖公会伝道協会) から給料は支払われていなかった。パウルス師の理解によると、ヤング先生は、後になって WA の宣教師としての支援を受け入れられたのではないかということである。

カナダ聖公会本部で手に入れた Anglican Women's Training College (注12) の設立過程の説明には、養成機関を生み出すための様々な経過と、そのために献身した人々について述べられて

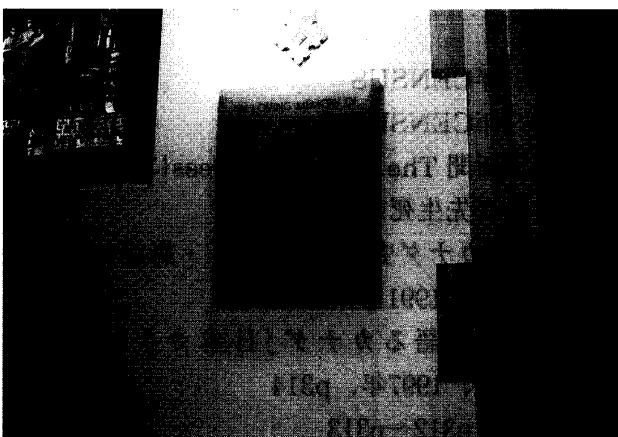
いるが、その学校から実際にはじめて派遣された宣教師がMiss Trentであること。彼女は、1894年日本へ行き、一軒一軒の家をまわり、女性や子どもを中心に伝道活動をした。続いて、1899年にMs. Annie Archerが、日本の工場で働く女性や子どものために奉仕活動を行ったと述べられており、2人ともCCMAカナダ教会伝道協会を通じて派遣されたとある。

しかし、ロビンソン師が残された「カナダ聖公会・宣教団の伝道」には、トレント先生もウィクリフ伝道協会となっており、出身教会であるトロントの大教会聖パウロ教会の熱い支援を受けてやって来られた自費宣教師であると記述されている。

聖パウロ教会には、トレント先生が教会にとって最初の宣教師であったことをりっぱなプレートに記念している。(資料22)



資料22A 聖パウロ教会



資料22B トレント先生を記念するプレート

これらを総合して言えることは、いずれもが真実ではないかということである。すなわち、ヤング先生もトレント先生もウィクリフ伝道協会の支援を受けていたがそれは、原則的にIndependent Missionaryを意味するという。どちらもロビンソン師(WMの最初の宣教師)との関わりがあり、師の働きを助けるため来日されているということ。

しかし、トレント先生は、AWTCを卒業し、ヤング先生は卒業されてない。WAから派遣される宣教師は、AWTCを出なければならないというのは、原則であってヤング先生の場合は、どのような理由かはわからないが入学されなかった。今回の調査によって、ヤング先生が、教師として十分な経験をつんでおられたということもその理由かもしれない。

否、それ以上にヤング先生が幼稚園を辞めすぐに日本へと突き動かす理由があったのであろう。

宣教師と一口にいても、宣教師間では、AWTCを卒業している場合は、執事であり、司祭を助けていく立場であることが明確に意識されていたのでないか。また、ヤング先生の場合は、周囲の人も、元々ハイスクールと幼稚園のベテランの教師であるから、それを十分に理解されていたであろう。

このように考えると、ヤング先生がやがてご自分の賜物を生かし幼稚園を始められ、教育の道を拓き独自の働きをされたことは、当然のなりゆきだったと感ずるのである。

おわりに

私たちの学校の創設者ヤング先生は、決して若くない年齢で日本への伝道を決意され来日された。今回の調査で幾つかの新しい発見があったが、その一つは、ヤング先生の経歴の空白部分である。これまでは、ヤング先生は、Vienna High Schoolの母校の先生として誉れ高き教師であったことのみ知られていたのであるが、地元の新聞記事から判明したことは、どうやら、その他にも先生をされていたということであった。(地図E・F)ハイスクールを卒業され、日本に来られるまでの約20年間に2年の学びの機関(美術学校と師範学

校)を除いてずっと教師をされていたことになる。(資料23・年表参照)

オンタリオ州は、教育、とりわけ幼稚園への取り組みは他の州より早かったようであるがそのような草分け時代に、どのようなことがきっかけで幼い子どもの方に目を向けられたのであろうか。その後なぜ日本へ来ることを決心されたのであろうか。ヤング先生はご自分のことは何も語らず、また残されなかった。それ故、なおさら先生について知りたいと思うのである。今回の調査で、実践者・パイオニアとしてのヤング先生がより印象的になった。そして、絶えず前を向き、天を仰ぎながら果敢に道を歩まれた姿をイメージすることができる。この先生の姿こそ、私たちへの暗黙のメッセージなのであろう。

限られた日程の中で、今回やり残し、本稿において触れなかったことの一つは、ヤング先生が育てられた清水正高氏(卒業生、清水くりの子ども)のカナダでの痕跡である。今回の調査で発見したヤング先生の死亡を報じる地元新聞にAylmerの聖公会で清水氏が奏楽をしていたことがわかったが、ヤング先生が退職後、正高氏とどのように拘わり、トロント音楽学校まで送られたのかなどまだ不明の点が多い。もしできればヤング先生のもう一つの顔、母親として(養育者)の姿を今後浮き彫りにできればと願っている。

(注)

1. 「目で見る〈柳城〉の100年」、柳城学院 歴史編集委員会、1998年
2. 「キリスト教保育に捧げた人々」、キリスト教保育連盟、1986年
3. 柳城女子短期大学紀要第2号、「草創期の柳城スクール」～ヤング書簡～、1980年、大江真道
4. Cyril Hamilton Pouls司祭、1918年日本にて出生、父は元中部教区主教、中部教区にて牧会(1949～1970)、聖公会神学院教授、1970年カナダへ帰国、トロント市トリニティー神学部教授、81歳(現在、バンクーバー在住)
5. 「あかしびとたち」～日本聖公会人物史～、日本聖公会歴史編集委員会編、1974年日本聖公

会出版事業部、

6. 「追憶」、板東喜久編集、柳城保母養成所、1940年
7. 「聖人事典」、ドナルド・アットウォーター、キャサリン・レイチェル・ジョン、山岡健訳、三交社、1998年
8. 「オックスフォード・教会史辞典」によれば(527頁)、『英国のフリー・チャーチ』はエクスターの主教H・フィルポットと彼の配下の一聖職でトトネスブリッジタウンの東礼拝堂の代表者ジェームス・ショオアーの間で1843年に起こった論争に端を発するプロテスタントの小さな団体や、ウエスレー派を支持したハンチンドン伯爵夫人の問題などにみられる英国国教会の体制派との軋轢(あつれき)で、英国教会(聖公会)から離脱した、いわゆる非国教会派の信徒の総称である。
9. 「概説カナダ史」、F. ヘンリー・ジョンソン著、鹿毛基生訳、学文社刊、1984年
10. 「カナダ聖公会・宣教団の伝道」～東方の帝国～、J・C・ロビンソン著、大江真道訳、1982年
11. Edish Mary Trent (1864～1930.12.9)
12. Anglican Woman's Training College, Grace Heldenby, 1989, P10・P80

(資料)

1. 滞邦許可書。(1940年1月6日)カナダ聖公会本部資料室より
2. 公使宛の手紙。(1940年2月24日)、同上
3. CENSUS(国勢調査書)、Viennaの図書館より
4. 1861年CENSUS
5. 1871年CENSUS
6. 地元新聞 The Aylmer Expressに報じられたヤング先生死亡記事
7. 「概説カナダ史」、大原祐子・馬場伸也編、有斐閣、1991年
8. 「史料が語るカナダ」日本カナダ学会、有斐閣、1997年、p314
9. 同上、p312～p313
10. The Living Message

11. MEMORIES～History of Port Burwell～、Frank&Nancy Prothero、NAN-SEA PUBLICATIONS 1986, Port Burwell Marine Museumより
12. Trinity Anglican Churchの写真
13. 弟とその妻の墓の写真
14. Early Education in Aylmer, Aylmer Museumより
15. The Aylmer Sunから転載されたPublic Schoolの出席数
16. The Aylmer Expressからの手写しAylmer, Ontario, Thursday, April, 11th, 1940
17. The Aylmer Sun (The Aylmer Expressの前身)からの手写し
18. A: Aylmer Public School, Early Education in Aylmerより
B: Aylmer Public School, Aylmer Museumより
C: Aylmer町の聖公会
D, E: Aylmer Public SchoolにおけるKindergartenとヤング先生. Aylmer Museumより
19. The New Era 1906. 8、カナダ聖公会本部資料室より
20. The Mission World 1914. 3、同上
21. トレント先生の写真
22. 聖パウロ教会とトレント先生を記念するプレート
23. ヤング先生の生涯とカナダ・日本の年表

(参考文献)

1. 「日本全史」ジャパン・クロニク、講談社、1991年
2. 「Histoire de l'Europe ヨーロッパの歴史～欧州共通教科書～」、フレデリック・ドルーシュ総合編集、花上克巳訳、東京書籍、1994年
3. 「もう一つのアメリカ・カナダを知る」J・セイウェル、S・ファース、吉田健正編 篠崎書林、1985年
4. 「カナダ教育史」、F・ヘンリー・ジョンソン著、鹿毛基生訳、学文社、1984年

カナダにおけるマーガレット・M・ヤング

西暦	和暦	年齢	場所	マーガレット・M・ヤングの生涯
1857.4.1	安政4年	0	CANADA Vienna (Ontario)	出生
1874	明治7年	18		Vienna Pubulic School (1818年設立) を卒業、母校の教師となる
1879	明治12年	23		同校を退職
1880	明治13年	24	London	ロンドン美術学校
1881	明治14年	25	(Ontario)	同校を卒業 Straffordville Bayham で教師か
1888	明治21年	32	Hamilton (Ontario)	ハミルトン市師範学校 (Hamilton Teachers College) 保母科に入学
1889	明治22年	33		同校を卒業
1890.8	明治23年	34	Aylmer (Ontario)	主任保母 (Aylmer Public School 幼稚園部門の最初の責任者) として勤務 同園を退職
1895	明治28年	39	名古屋 東区白壁町	ウィクリフ伝道協会の支援を受け、独立 (自費) 宣教師として来日 ロビンソン師らの働きを助けるため
1898	明治31年	42		自分の日本語教師、杉浦いねにフレーベルの理論による Kindergarten の理論と実際を教える
1899.4	明治32年	43		近隣に100枚程のチラシを配った結果、7名の子どもが集まり、自宅を解放して保育を始める
1901	明治34年	45	撞木町	すぐに手狭になり、移転 続いて東片端へ移転 設立認可を受ける
1910	明治43年	54	白壁町 (巾下)	英国聖公会「聖使女学院」が芦屋に移転することにより、柳城がその後を手に入れたようである 分園設立
1911	明治44年	56	(鷹匠)	分園設立
1914	大正3年	59	(大池)	分園設立
1922.7	大正11年	64	Glencoe	退職・帰国 姉 Mis. Gilbert の元に
1936	昭和11年	78	名古屋 東区白壁町	清水正高氏と共に来日 清水氏は、トロント音楽学校を優秀の成績をもって卒業しばらく滞在し帰国
1939	昭和14年	81	名古屋	来日 病重くなる (11 / 18 出発 12 / 2 横浜港着) 柳城のかつてのご自分の部屋でポーマン女史らの手厚い看護を受けた
1940.3.29	昭和15年	82		最後は、清水氏の家にて過ごされた

西歴	カナダ	西歴	日本
1848	イギリスの最初の責任政府が、ノバスコシア州におかれる	1853	ペリーが浦賀に来航
1858	ブリティッシュコロンビア植民地が創設される	1857	踏絵廃止
1859	オタワ、首都となる		
1865	連邦結成に関するケベック決議を採択		
1867	イギリス議会で「イギリス領北アメリカ条例」が成立し、カナダ連邦(4州)が誕生、初代の首相にマクドナルドが就任	1868	明治維新
1870	マニトバ州を創立	1871	文部省の設置 キリスト教婦人宣教師「亜米利加婦人教授所」開設(横浜)
1871	ブリティッシュコロンビア、連邦の州となる	1872	鉄道敷設(新橋・横浜間) 太陽暦採用
1873	プリンスエドワードアイランド、連邦の州となる 自由党マッケンジー内閣成立(～78)	1873	キリシタン禁制の高札が取り除かれ、キリスト教が黙認される
1877	最初の日本人移民、永野万蔵がカナダに到着	1876	廃刀令 「東京女子師範学校附属幼稚園」開設
1885	カナダ太平洋鉄道が完成 オンタリオ州が州制度の一部門として幼稚園を承認した	1886	アメリカ人ミス・ポートル「金沢北陸女学校附属幼稚園」設立 長崎のドロ神父「託児所」創立
		1887	石井十次「岡山孤児院」などプロテスタント育児事業盛んとなる
		1889	大日本帝国憲法発布。アメリカ人ハウ「頌栄幼稚園」「頌栄保母伝習」設置
		1890	赤沢鐘美・ナカ夫妻による新潟静修学校の託児所
1896	クロンダイクで金鉱発見、コールドラッシュはじまる 自由党ローリエ内閣成立(～1911)	1894	日清戦争がおこる
1899	南ア戦争に参戦	1899	ミス・ヤング柳城幼稚園設立
1905	サスカチュワン州とアルバータ州を新設	1904	日露戦争がおこる
1914	第一次世界大戦に参戦	1906	JKU (Japan kindergarten Union) 設立、初代会長ハウ
1918	婦人参政権法が成立	1909	石井十次、大阪に「愛染橋保育所」設立
1919	独立国として国際連盟に加盟	1914	第一次世界大戦に参戦
1921	自由党キング内閣成立(～26)	1920	国際連盟に加盟 戦後恐慌
1926	第二次キング内閣成立(～30)	1923	関東大震災
1930	保守党ベネット内閣成立(～35)	1925	普通選挙法成立、ラジオ放送開始される
1931	イギリス本国と自治領との関係を決めたウェストミンスター憲章が成立、カナダはイギリス国王への忠誠を誓うだけの連邦国となる	1933	国際連盟脱退
1935	第三次キング内閣成立(～48)	1936	二・二六事件おこる
1939	第二次世界大戦おこり、ドイツに宣戦布告	1937	日中戦争はじまる
1941	太平洋戦争おこり、日本に宣戦布告 1945年の終戦までに70万人をこえるカナダ兵が従軍し、約4万人が戦死	1940	日・独・伊三国軍事同盟むすぶ
		1941	太平洋戦争はじまる
		1945	広島、長崎に原爆投下される、ポツダム宣言を受け入れて無条件降伏
		1946	日本国憲法発布

カナダにおけるマーガレット・M・ヤング

資料1 滞邦許可書 1940. 1. 6

第二號様式

第 340 號 No. 340		滞 邦 許 可 書 Permit for Stay in Japan					
滞 邦 許 可 期 間 Permitted Period of Stay		自 昭 和 14 年 12 月 27 日 至 昭 和 15 年 12 月 26 日					
國 籍 Nationality	加 奈 陀	居 住 所 Address	名古屋東区白壁町一丁目五番地1/2エスジ、ホーマン方				
職 業 Occupation	親 類 Relationship	氏 名 Name in Full		年 齡 Age		性 別 Sex	
		Family Name	Given Name	Yrs.	Mos.		
本 人 Applicant	無 職	世 帯 主	ヤ ン グ	マ ー ガ レ ッ ト . マ ド ラ	82	9	女
同 伴 家 族 Accompanying Members of Family			(Young	Margaret Madora)			
上記ノ通り滞邦スルコトヲ許可ス Your application for stay in this country is hereby granted. 昭和15年1月6日 Date: 6th Jan. 1940. 愛 知 縣 知 事 The Governor of Aichi Prefecture							
注 滞邦許可期間満了後引續キ滞邦セントスル外國人ハ期間満了十日以前迄ニ居 意 住地又ハ滞在地地方長官ニ滞邦期間延長ノ許可ヲ願出スベシ				N. B. Foreigners who wish to stay further after the expiry of the permitted term of stay must apply for its extension to the governor of the prefecture where they are living or staying, 10 days before the expiry of the term.			

日本標準規格 B 5

資料2 公使宛の手紙 1940. 2. 24

3 of 3 Higashi Hatana Machi
Nagoya, 24th February 40.

H. B. M. Consul-General
Osaka, Japan.

Dear Sir:

An elderly Canadian lady who retired from our Mission some years ago has returned to Nagoya, so I am writing to tell you of her presence in your consular district and to give her name and other details.

Name: YOUNG Miss MARGARET MADORA

Born: At Vienna, Ont., Canada. 1st April 1857.

Occupation: Retired Missionary (Formerly in Nagoya).

Address: c/o Mr. Masataka Shimizu,
1 Shirakabe Cho, 4 Chome,
Higashi Ku, Nagoya.

Next of Kin: Mrs. Gilbert, (sister)
Glencow,
Ontario,
Canada.

I shall be glad to attend to any other business for Miss Young, as she is not well enough to write letters herself.

Kind regards.

Yours sincerely,

Mission Secretary-Treasurer.

資料8 連邦結成前の英領北アメリカ植民地人口の推移

(単位：万人)

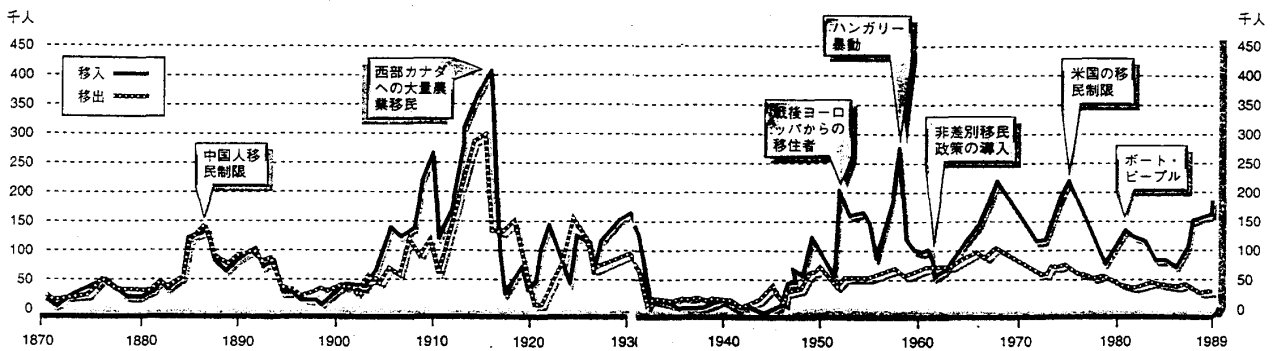
	1806	1825	1831	1851	1861
アッパー・カナダ	7.1	15.8	23.7	95.2	139.6
ロワー・カナダ	25.0	47.9	55.3	89.0	111.2
ニューファンドランド	2.7	5.8	7.6	10.2	12.3
プリンス・エドワード・アイランド	1.0	2.9	3.3	7.2	8.1
ノヴァスコシア	6.8	12.0	16.8	27.7	33.1
ニュー・ブランズウィック	3.5	7.3	9.4	19.4	25.2

出所：Historical Atlas of Canada.

注1：アッパー・カナダは現在のほぼオンタリオ州を指し、ロワー・カナダは現在のほぼケベック州を指す。また、先住民は統計に含まれていない。

注2：100名以下の単位は四捨五入。

資料9 移民人口の趨勢



出所：Statistics Canada.

資料 19

STATISTICS OF FOREIGN MISSIONS OF M.S.C.C.

MISSIONARIES	DATE	MISSION	STIPEND	COMMUNICANTS		NATIVE CHRISTIANS	BAPT
Rev. J. Cooper Robinson Mrs. Robinson	1888	Nagoya	\$ 660				
Rev. H. J. Hamilton Mrs. Hamilton	1892		1350				
Miss E. M. Trent	1894		576				
Miss Margaret Young	1895		576	1904	80	138	18
Miss L. L. Shaw	1904		516	1905	102	144	20
Rev. J. G. Waller Mrs. Waller	1890	Nagano	1400				
Rev. J. I. Mizuno				1905		166	23
Rev. F. W. Kennedy Mrs. Kennedy	1895	Matsumoto	1400	1904	91	91	15
				1905			
Rev. Arthur Lea	1897	Gifu	1650	1904	78	132	9
				1905	85	142	24
Rev. J. Macqueen Baldwin Mrs. Baldwin	1899	Toyohashi	Honor- ary	1904	27	46	12
Miss Archer				1905	25	46	8
Rev. R. H. McGinnis Mrs. McGinnis	1900	Ueda	1390	1905		38	16
Rev. C. H. Shortt	1900	Naoetsu	830	1905		34	
Rev. G. Egerton Ryerson	1900	Naoetsu	1140				
Rev. J. R. S. Boyd	1895	Ku-Cheng	1180	1904	637	2027	216
Mrs. Boyd				1905	727	2039	208
Miss Garnet							
Rev. W. C. White	1897	Longuong	1140	1904	316	1178	61
Mrs. White				1905	302	1231	72
Rev. R. H. A. Haslam	1903	Amritsar	1000	1904	158	416	19
Mrs. Haslam				1905	153	467	23
Rev. Sydney Gould	1897	Acca	1300	1904	52	90	1
Mrs. Gould				1905	84	207	5
Rev. T. B. R. Westgate Mrs. Westgate		Mpapia	1000		70	244	40
Dr. Crawford			1000		128	211	30
Miss McKim		Julfa	500		120	231	29
Miss Harris		Helouan, Egypt	600	186	children		5
Miss Thomas		Quepe					18

FOREIGN MISSION FIELDS

119

Foreign Mission Fields of M.S.C.C.

MISSIONARIES

N.B.—The Woman's Auxiliary to the M.S.C.C. is responsible for all work among women and children in the Foreign Mission Fields of the Church of England in Canada.

Japan

DIOCESE IN MID-JAPAN.

- Rt. Rev. H. J. Hamilton, D.D., Bishop in Mid-Japan, and Mrs. Hamilton, 1892. *Nagano*
 Rev. J. Cooper Robinson and Mrs. Robinson, 1888. *Nagoya*
 Rev. J. Macqueen Baldwin, M.A., and Mrs. Baldwin, 1889 (Honorary) *Nagoya*
 Rev. J. G. Waller, M.A., and Mrs. Waller, 1890 (on furlough) *Ueda*
 Rev. F. W. Kennedy, M.A., and Mrs. Kennedy, 1894 (Mrs. Kennedy in Canada) *Matsumoto*
 Miss E. M. Trent, 1894. *Nagoya*
 Miss Margaret Young, 1895. "
 Miss Archer, Deaconess, 1899. *Ichinomiya*
 Rev. C. H. Shortt, M.A., 1900. *Takata*
 Miss S. E. Makeham, 1902. *Matsumoto*
 Miss L. L. Shaw, B.A., 1904. *Osaka*
 Miss Nora Bowman, B.A. 1907. *Matsumoto*
 Rev. R. M. Millman, M.A., and Mrs. Millman, 1909. *Toyohashi*
 Miss E. Lennox, M.D., 1909. *Matsumoto*
 Rev. W. H. Gale, 1912. *Matsumoto*
 Miss M. S. Cooke (Honorary) 1912. *Nagoya*
 Rev. V. C. Spencer, B.A., B.D., 1913. *Gifu*
 Miss Florence Spencer, 1913. *Gifu*

Africa

- Rev. T. B. R. Westgate and Mrs. Westgate, 1902. *C.M.S. Kongwa, M'papwa Post, via Dar-es-Salaam, German East Africa.*
 Miss C. V. Harris, Deaconess, 1904. *Cairo, Egypt.*

Palestine

- H. Thwaites, M.R.C.S., L.R.C.P., and Mrs. Thwaites, 1911. *Jerusalem*

China

DIOCESE IN HONAN.

- Rt. Rev. Wm. C. White, D.D. Bishop in Honan, and Mrs. White, 1897. *Kai Feng, Henan*
 Miss Katherine Robbins, 1910. "
 Mrs. Beatrice K. Jones, 1910. "
 Rev. G. E. Simmons, M.A., and Mrs. Simmons, 1910. *Sutchow Ho,* "
 Rev. A. J. Williams, B.D., 1912. *Kweitch,* "
 Rev. N. L. Ward, M.A., 1912. *Kai Feng,* "
 Rev. W. M. Trivett, 1912. "
 Miss B.M. Benbow, Deaconess, 1912. "
 Miss E. E. Howland, Nurse, 1912. "
 Miss H. M. Nash, 1912. "
 P. V. Helliwell, M.B., 1912. "
 Rev. R. S. Tippett, B.A., 1913. "
 Miss E. M. Phillips, M.D., 1913. "

Address all letters to:—Canadian Church Mission Kaifeng, Honan, China, marked "Via Siberia."

India

- Rev. R. H. A. Haslam, M.A., and Mrs. Haslam, M.B., 1903. *Kangra, Punjab*
 Geo. B. Archer, M.D., 1907, (on furlough) "
 Miss C. Thomas, Deaconess, 1912. "
 Miss A. B. Hague, Deaconess, 1912. "
 Miss A. E. De Blois, 1912. "
 Rev. F. S. Ford, 1912. "
 Rev. W. A. Earp, B.A., and Mrs. Earp, 1912. "
 Hon. Miss F. M. Macnaghten, (Honorary) 1913. "

South America

- Miss Louy Thomas, 1897. *Temuco, Chile*

NATIVE WORKERS

Japan

- Rev. J. I. Mizuno
 " T. Makioka
 " H. P. B. Uno (in part)
 " S. Soga
 " D. J. Iwai (in part)
 Twenty-one native lay workers.

China

- Rev. Wei Fuh-Yung (Deacon)
 Seventeen native lay workers.

India

- Eight native lay preachers, besides teachers in the Middle Schools.

INSTITUTIONS

Japan

- Blind School, Gifu.
 St. Mary's Home (Girls), Matsumoto.
 Four Kindergartens, Nagoya and Matsumoto.
 Training School.

Palestine

- St. Helena's Hospital, Jerusalem.

China

- St. Andrew's School (Boys) Kai-feng.
 St. Mary's School (Girls), Kai-feng.
 St. Paul's Hospital, Kai-feng.
 "Door of Hope" Orphanage, Kai-feng.

India

- Normal Training School, Kangra.
 Maple Leaf Hospital, Kangra.

MISSIONARIES AND WORKERS IN OTHER FOREIGN FIELDS SUPPORTED BY THE WOMAN'S AUXILIARY

- China: KUOHENG—Miss Wade. Foo CHOW—Miss Fearon. India: TARN TARAN—Miss Strickland
 Korea: SEOUL—Japanese Biblewoman. CHAMULPO—Japanese Biblewoman, Kurose San.